

## さあ～お家にかえる準備ができましたよ

介護老人保健施設リンデンバウムの杜  
介護支援専門員 熊谷牧子

【施設の紹介】 医療法人社団晃和会として関連法人を含め気仙沼市、本吉町、南三陸町、藤沢町にクリニック、介護老人保健施設、医療機関併設型小規模介護老人保健施設、グループホーム、居宅介護支援センター、7つの事業所を運営しております。リンデンバウムの杜は東新城地区にあり、震災後福祉関連の事業所に恵まれ公共施設や商業施設など充実し、とても住みやすい地域となっております。

【コロナ禍における感染症対策】 国の補助を受け県内では一番早く陰圧機を設置し、自費にて陰圧テントを購入するなど体制を整えました。ゾーニング研修会や感染症勉強会など外部講師を招いて実際に感染が広がった時の事を想定して訓練しています。又、万が一に備え応援職員が介助に当たった際、利用者様カードとして介助方法など写真付きで作成して、職員全体で同じ対応ができるよう体制を整えております。「コロナを怖がらずに正しく恐れる。」「他人事ではなく自分の事と考えて。」というお話を気仙沼市医師会長の森田潔先生から聞いたことがあります。まさに正しい知識をもち感染対策の大切さを学び、換気から始まり手の汚れの有無に関わらず手を洗う、更には手指消毒、良く使う手すりやテーブル、端末機器などの消毒など標準感染予防策を徹底できるよう一人ひとりが出来る事を繰り返し実行しているところです。

【リハビリの様子】 入所棟では様々な事情で病院や自宅からリハビリを希望される方の受け入れを行っております。中には、自宅に戻れない方も居られますが多職種共働のもとリハビリを行っていただき、自分で食事を食べることやトイレで排泄する体力を保つことなど一人ひとり目標に向けてできることからリハビリを頑張っております。



【コロナ禍での変化】 病院から受け入れる場合面会制限にて入院中の様子が十分に分からない家族が多く、入院前の状態でないと自宅での介護は難しく施設でのリハビリを希望するケースやリハビリをしても元の状態になるまで時間が掛かるようなケース、急性期治療が終わり口から食べることが難しくなり胃瘻造設し、施設入所となるケースが多くなっております。

【口から食べること】 入所前や入所してからどんな事をするか例をあげて簡単に紹介をしたいと思います。先ず「どんな状態になりたいか?!」「どの様な状態になれば自宅で過ごせるか?!」と本人や家族に聞く事にしています。口から食べる事が難しくなって胃瘻造設した方は「食べる事が好きだったから、口から食べられるようになって欲しいけど、口からは食べられず、胃瘻にしたから無理だよね。」と話します。「100%口から食べられるようになるとは言えません。でも、飲み込む機能が残っているか評価して訓練をする事で食べられるようになるかもしれません。」と伝えます。「食べる事は生きること」と震災を経て摂食嚥下に関わる機会が増え、口の中を清潔にすることで誤嚥性肺炎予防に繋がると様々な先生方の指導を受けました。特に東日本大震災から今でも、継続的に支援していただいている山梨県の古屋聡先生をはじめ金澤歯科の金澤洋先生（日本摂食嚥下リハビリ学会認定士）からは沢山の事を学び今に至っております。その学びを継続させ先生方との連携を図りながら口から食べる機能を取り戻せるよう胃瘻から経口移行へ取り組みを強化し、在宅復帰を行っています。しかし、家族は食べる事は難しいと言われ胃瘻造設を決心して、施設では嚥下機能を評価して食べられるようになると言われ不思議そうな顔をします。確かにその通りですよね。私も知識が無ければ同じ反応をすると思います。病気を発症し、急性期治療の過程で胃瘻から栄養をとり体力がついた事でリハビリが進み失われた機能や嚥下機能の回復が望めるのだと思っております。当施設では一人でも多く口から食べる喜びを取り戻して欲しいと願いながら訓練をしております。

【百聞は一見に如かず】 今現在、面会制限を行い家族が自由に本人の状態を十分把握できるような環境ではありませんが窓越しやタブレット面会などをすすめながら家族が状態を把握する事でスムーズな復帰に繋げる事が出来ております。「百聞は一見に如かず」本人の回復の様子を見る事はとても大切なことだと思いますし、その驚きと喜んでいる様子が本人にとってのモチベーションUPに繋がると信じています。

【リンデンバウムの杜が目指す先には】 病院での治療を終え、引き続きリハビリが必要な方は老健施設へ入所し、継続してリハビリを実施。機能回復が見込めれば在宅復帰、復帰後も継続して通所リハビリにて訓練する。認知症等へのサービスにはグループホームを利用して在宅サービスを継続して行く。その方の事情に合わせて様々なサービスを提供しながら最終的には看取りなども行って行く。万全の体制を構築しながら地域包括ケアの役割を担っていきたいと思っております。

「さあ～お家に帰る準備が出来ましたよ。お家に帰りましょう。」と笑顔で送り出せるようお手伝いができる施設でありたいと思っております。